



与路小・中学校 学校だより

瀬戸内町立与路小・中学校 学校だより「与路っ子」令和5年度12月号

与路っ子 12

「奄美のゆく年 くる年」

校長 川井 功作

月日が流れるのも早いもので、今年もあと数日で終わろうとしています。今年はコロナ禍の制限から解かれ、ようやくこれまでの日常を取り戻すことができました。「あたりまえ」の大切さを痛感した一年でした。さて、いよいよ卯年も終わろうとしています。今回は奄美の年末年始について簡単に紹介します。

◎「門松」奄美の門松には独特な文化があります。年神様を家に迎え入れるために飾るのですが、奄美では各家庭で作ることが多く、年の瀬が近づいてくると松や竹などを山へ取りに行きます。一般的な門松とは違い、松・竹・ゆずり葉・椎の木を飾るのですが、島の中でも地域によって飾る種類が違います。「松」は冬でも緑の葉を茂らせるため不老長寿の木として好まれ、神を祀る(まつる)という意味があります。「竹」は成長が早く真っ直ぐ育つことから縁起がいいと言われており、「ゆずり葉」は親から子へ代々ゆずる子孫繁栄の願いが、「椎の木」は実がたくさんなるため繁栄の願いが込められているそうです。

◎奄美の年越し料理「ウッフネヤセ」(豚骨野菜) 奄美では昔から豚を食べる習慣があり、郷土料理にも豚肉を使ったものがたくさんあります。方言で豚のことを「ウッフ」と言い、その代表的なものが大晦日に食べる「ウッフネヤセ」です。昭和中期ごろまでは多くの家庭が庭先で豚を飼い、年末になるとその豚をさばいて年越し料理や正月料理にしていました。また、付き合わせの野菜はツワブキ(方言でツバシャ)や大根などと地域や家庭によって違います。ツワブキは根深いので「未長く」、大根は輪切りにして「一家円満」の願いが込められています。

◎お正月料理「三献」お正月と言えば「おせち料理」ですが、奄美では多くの家庭が「三献」を作ります。三献は年始祝いの儀式料理です。元々武家儀礼が反映された料理として伝わったと考えられています。餅入りの吸い物の赤椀(一の膳)、刺身(二の膳)鶏肉もしくは豚肉の吸い物の黒椀(三の膳)になります。元旦の朝、家長の「オショウロ」(さしあげましょう)のかけ声で三献の儀式が始まります。地域によって具材や出される食事の順番が異なることもありますが、どの地域も独自のしきたりを大切に後世に伝えています。

持久走大会



12月8日(金)、持久走大会を実施しました。大会に向けての本格的な練習は、11月中旬から始まりましたが、持久走には業間の時間に通年で取り組んできました。本番では、児童生徒2名が自己ベスト記録を更新という好記録も出ました。

練習、本番に際しては、道路の安全確保や応援など、地域の皆様には大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

町弁論・ショートスピーチ大会

11月15日(水)、町の中学生弁論・ショートスピーチ大会が行われ、本校からは、幸本美優さんが弁論に、福井李央さんがショートスピーチに出場しました。二人の発表は、いずれも与路島の本土復帰運動の歴史を題材としたもので、本土復帰70周年にふさわしいものでした。また、福井李央さんがショートスピーチは、優秀賞を獲得することができました。

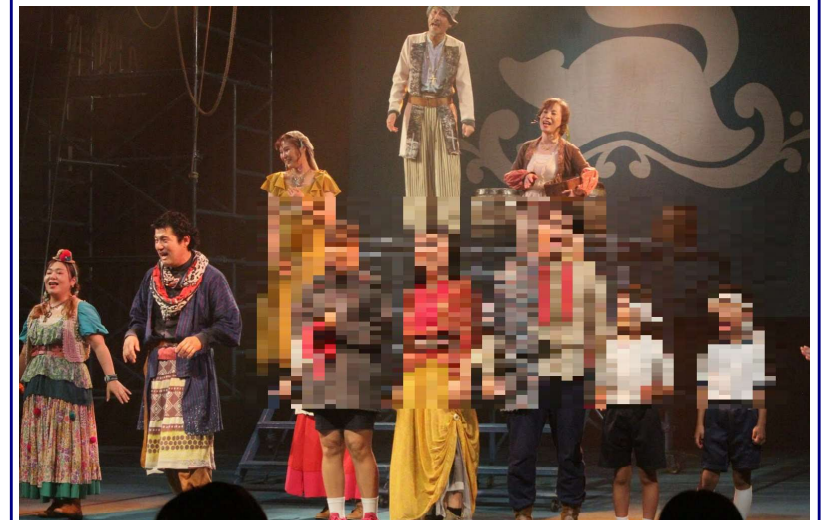


芸術鑑賞教室

11月10日(金)、文化庁の事業として東京演劇アンサンブルによる「消えた海賊」の公演が行われました(写真)。劇団関係者が19名、セットは天長丸で運搬と、10年に一度級の超大型公演となりました。子供たちもステージに立たせてもらい、歌って踊っての大変楽しい舞台でした。

また、12月5日(火)は、県の事業として、パフォーマーのK@AITO氏の公演も行われました。手品、ジャグリングなど、間近で見られた上に、後半のワークショップでは、実際の道具を使わせてもらって、ジャグリングの体験をさせていただきました。

今年度の芸術鑑賞教室は、以上で終わりですが、次年度も引き続き、開催できるよう調整を重ねていきたいと思っております。



おもな1月の行事

- 9 (火) 始業式
- 13 (土) 書き初め大会・ドリームスピーチ
- 16 (火) 鹿児島学習定着度調査(～17日)
- 24 (水) 給食集会
- 26 (金) 小学校集合学習会